

# 生涯學習情報誌

Life Learning

5 2019  
May  
NO.345



2018 (平成30年度)

50歳以上「博士号取得支援事業」

## 助成金授与者決定



2018年度・博士号取得支援事業の合格者の授与式が3月28日、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団事務所で行われた。

表彰式に先立って張競選考委員長が「本事業は急逝した松田妙子理事長が自ら指揮をしたプロジェクトで、自身が70歳を超えて博士号を取得した経験から、応募資格を50歳以上としました。私の最大の驚きは皆様の意欲です。過去の合格者の博士号取得率が約60%と、並大抵の努力では達成できない数字を残しています。充実した第2の人生を送るためにも寄与していると思います」と、ごあいさつの中で事業の成果を語った。

## ●合格者と研究テーマ

## 小松明子 (66歳)

「戦時ペニシリン開発にみるモノ、人、時間、組織の「動的」融合について―生活世界を見直す視点を薬品開発事例の分析を通じて得る」

## 齋藤年男 (61歳)

「常時微動測定による木造軸組構法住宅の耐震性に関する実証的研究」

## 坂本美佳 (50歳)

「ヒト薬物代謝関連遺伝子変異がタンパク質機能と構造に及ぼす影響の生命情報学解析」

## 清水玲子 (56歳)

「日本赤十字社参考館の研究」

## 須藤修司 (57歳)

「変容する社会環境におけるペイテレビ産業のエコシステム ―有料メディアアクセスとオーディエンスの経験知によって共創されるペイテレビ利用価値」

## 寺部 優 (55歳)

「日本企業の協調的な戦略行動に関する研究 ―戦略分析の枠組みと戦略安定モデルの提示」

(五十音順、年齢は授与式当日)

## 2018 ● 「博士号取得支援事業」 助成金授与者決定



めでたくこの3月で学位を取得した方も2名いた。合格証授与式後は、桜餅をいただきながら、張競選考委員長、財団事務局長・佐藤梨奈を交え交流。



### 選考の言葉

選考委員長 張競

(明治大学教授／博士 (学術))

本財団の博士号取得支援事業第9回の選考は無事に終了し、去る3月28日、財団で授与式が行われました。ここに選考委員一同を代表して、合格した方々に心から祝賀の意を表したいと思えます。本当におめでとうございます。

今回の募集は昨年の年末に締め切られ、全部で65名の応募がありました。一次選考では選考委員会により14名の候補者が選出され、2月15日、第一次合格者の面接が行われました。続いて第二次選考委員会による最終選考の結果、小松明子さん、斎藤年男さん、坂本美佳さん、清水玲子さん、須藤修司さん、寺部優さんの6名の合格が決定されました。

第一次選考の合格者は各分野において優れた研究業績を挙げた方々ばかりです。しかし、採用枠には限りがあり、最終合格者を絞り込まざるをえません。選考委員にとって難しい判断でしたが、惜しくも選に漏れた方々は一層精進し、来年以降も応募くださるようお待ちしております。そして、めでたく合

格した方はますます努力し、一日も早く博士号を取得するよう、選考委員一同は心より期待しています。

本財団の関係者にとって、2018年度は穏やかならぬ一年でした。11月、松田妙子理事長は怪我をされ、リハビリは順調に進んでいきましたが、第二次選考の直前、突然のご逝去という悲しい出来事がありました。

博士号取得支援事業は松田妙子理事長が自ら音頭を取って立ち上げたプログラムで、50歳以上を応募条件とするのも理事長が70歳を超えてから博士号を取得したという自らの経験を踏まえたご提案でした。

松田妙子理事長はこの事業に並々ならぬ熱意を示しており、毎回、自ら第二次選考に参加し、授与式も毎年欠かさずご臨席されました。今年も授与式にご出席され、新たに合格した方々と会つのを楽しみにしていました。それだけに、松田理事長のご逝去は誠に残念でなりません。

選考委員一同は松田理事長の遺志を受け継ぎ、今後も博士号取得支援事業を推進する決意です。博士号取得を目指す皆さんのご活躍を支援し、生涯学習を一層推進するために、選考委員一同は皆さんとともに、本事業のますますの発展のために、これからも微力を尽くしたいと思います。

# 博士号取得支援決定をうけて



**小松明子**

66歳

筑波大学博士後期課程  
人文社会科学科  
実務実習指導薬剤師

**戦時ペニシリン開発にみるモノ、人、時間、組織の「動的」融合について**

—生活世界を見直す視点を薬品開発事例の分析を通じて得る

## ■研究目的

戦前、死亡率第1位を占めていた感染症の治療薬への道を拓いたペニシリンは、世界を変えた薬の一つとされる。第二次世界大戦中にペニシリン開発研究を実施し、掲げた初期目標を達成した国は英国、アメリカ、日本の3か国である。研究では、英国と日本に着目し、それぞれのプロジェクト経過の国際比較から、科学技術と文化に関する両国の特徴を見出すために、プロジェクトリーダー（フロロリー教授、英、稲垣克彦陸軍軍医少佐、日）の行動を追跡して分析する。それを表出することは現在の研究者が未知の分野の開発研究を遂行する際の指針となる。この研究は稲垣氏が内藤記念くすり博物館に寄託した史資料の閲覧が端緒だった。

## ■合格のコメント

岐阜県の内藤記念くすり博物館への往復旅費など、支援は助かった。今後の研究目標はアメリカを加えた3か国の国際比較。学者・研究者の姿勢、製薬企業の姿勢、国家政策、軍事戦略など、比較テーマを広げていきたい。終戦後のペニシリン製薬工業化達成に至る研究機関と製薬企業の歩みも研究し、GHQと日本抗生物質学術協議会の役割も検討したい。内藤記念くすり博物館への橋渡し役だった故新田和男氏の未公開聴取録の整理、保存も進めたい。



**齋藤年男**

61歳

東京都市大学  
(株)細田工務店  
理事・技術顧問

**常時微動測定による木造軸組構法住宅の耐震性に関する実証的研究**

## ■研究目的

現在、新築住宅の施主は、耐震要素が当初の設計図面通りに施工されているかを確認できず引き渡される。住宅完成後に壊すことなく耐震性を評価する手法の開発が望まれている。この研究では、建物完成後に微動測定を行うだけで、壊すことなく建物の耐震性を推定する。まずは実測する建物と同様の外壁材や内装ボードを含めた壁の実大試験体により水平加力試験を行い、微小に変形した時の基準剛性を決め、基準剛性を使った理論式から、実際の建物の固有振動数を求める。同時に建物完成時の微動実測を行い、得られた測定データから、その建物の固有振動数を求め、理論値と実測値の相関関係から耐震性を評価する。

## ■合格のコメント

研究成果をより一般的な耐震性能評価方法として確立することが重要だと考えている。そのためにはまず、リフォーム業者や耐震設計に取り組む設計事務所所で採用されるようにして、広く普及する糸口を探っていきたい。新築物件での実測事例が増えることが普及のポイントで、理論値と実測値との相関精度アップにつながる。壊すことなくできる検査手法が一般化すれば、施工者に一定の緊張感を与え、手抜き工事、工事管理不行き届き防止につながる。



**坂本美佳**

50歳

お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科  
国立成育医療  
研究センター研究所

**ヒト薬物代謝関連遺伝子変異がタンパク質機能と構造に及ぼす影響の生命情報学解析**

## ■研究目的

薬物が細胞内で代謝される時の反応は、第1相反応と第2相反応に大別され、シトクロムP450 (P450) は第1相反応に関与し、薬物代謝のほか生体内のステロイド合成などに関わる酵素である。この研究では、ヒトP450遺伝子群の遺伝子変異の全体像を俯瞰し、P450の構造と機能に重要な因子を得ることが目的。遺伝子変異がもたらす酵素の機能異常や病原性の有無などを調べる際、A-や数値モデルなどの計算科学的な手法により、一度に大量の予測を行うことができた。病原性・薬物反応性を持つ変異と無害な変異を高い精度で分類することができ、P450が関与する薬物の投与量調整や副作用の防止に役立つと考えている。

## ■合格のコメント

コンピュータを利用した計算科学的な手法を用いて解析を行った。誰でも取り組み可能なもので、将来的にはヒト遺伝子群の遺伝子変異と病原性との関係を、誰にでも予測できるサイバスの実現につなげたい。分類モデルについては、有効な特徴量を増やして、より精度の高い分類が可能になるように改良の予定だ。今回の応用によりヒトP450遺伝子群以外の遺伝子変異の病原性予測の可能性も考えられ、適応可能な遺伝子やタンパク質の探索が求められる。

## 博士号取得支援決定をうけて



清水玲子

56歳

早稲田大学大学院  
文学研究科  
明治大学文学部  
兼任講師

## 日本赤十字社参考館の研究

## ■研究目的

博物館の父と称され、日本の博物館発展に尽くした棚橋源太郎氏の活動は、東京博物館時代、日本赤十字社参考館時代、博物館法制定と学芸員養成時代に3分される。この中で日本赤十字社参考館時代は21年と最も長い。これまで研究の対象とされて来なかった。この研究では、昭和27政令第47号博物館施行令に唯一記載されていた日本赤十字社参考館に着目、設立に至る国際的背景と、同社内での経過、その教育普及事業、社会への影響を考察する。博物館を生涯教育機関とみなす新たな視点や、現在では想定していなかった教育普及事業が戦前に実施されていたことが判明するため、研究成果が今後の博物館事業に活用されていくと考える。

## ■合格のコメント

参考館に関する基礎資料の入手が容易でないことから、今後の研究の一助になる資料として、博士論文は出版の予定。今後は日本赤十字社の幻燈利用についても調査を進め、博物館の映像メディア利用の促進につなげていきたい。参考館設立に大きな役割を果たした平山茂信氏についても研究を進める予定だ。今回の研究が一段落した所で「日本人と虫」に関する研究を再開したい。日本人とは何かを探る手掛かりにもなると期待している。



須藤修司

57歳

北陸先端科学技術大学  
大学院  
知能科学研究科  
(株)ジュピターテレコム  
リサーチ部部长変容する社会環境におけるペイテレビ産業の  
エコシステム ―有料メディアサービスとオーディエンスの  
経験知によって共創されるペイテレビ利用価値

## ■研究目的

ペイテレビ産業というサービス全体がどういった要素がある構造になっているかを明らかにし、視聴者のライフストーリーを遡って、視聴者にとつてのテレビサービスの利用価値を探っていく。その利用価値は実は産業側と視聴者が共同で創り上げており、その過程を追って具体像を提示する。それを双方で認識してもらい、さらなる利用価値を見出していくことが目的。研究の特徴はペイテレビをより大きなサービスエコシステムとして捉えること。テレビ受像機が普及し人工物とみなすことから始め、選択型サービスであるペイテレビ産業の構造や供給の仕組みを明らかにすることで、ペイテレビ産業全体を俯瞰する点にある。

## ■合格のコメント

広く産業界では「何が顧客にとって良いことなのか」について、明確な解答が得られず迷っていることが多い。ペイテレビの場合、映画やスポーツなど、視聴者が選択する理由は何か？幼児期の体験が色濃く反映している場合があり、それを見出すために、年齢や趣味嗜好など、被験者の範囲を広げていきたい。AI活用による人の動向データと、インタビュートというアナログ的手法との融合で、消費者にとつての価値あるサービスを発見していきたい。



寺部 優

55歳

早稲田大学大学院  
商学研究科  
(株)ウォータック  
インターナショナル  
代表取締役日本企業の  
協調的な戦略行動に関する研究  
―戦略分析の枠組みと戦略安定モデルの提示

## ■研究目的

日本企業の協調戦略(他社との協調的な戦略行動)の実態を明らかにし、理論で説明可能な協調戦略と、実務で行われている協調戦略との違いを検証することが目的。経営戦略、競争戦略、アライアンス戦略、組織間学習などの先行理論の研究を概観し、協調戦略の理論を整理・分類、新たな分析モデルを提示する。競合企業との協調戦略では、相手企業との競争関係の強さと、戦略内の協調の強さとの間に、どのような影響力があるかを検証する。協調戦略によって利益などの付加価値が発生する仕組みも研究課題の一つになる。これらの検証結果を統合して、実務で有効活用できる協調戦略の策定方法を提示することが研究の到達目標となる。

## ■合格のコメント

現在、経営する交通広告代理店は、JRをメインに各種広告を取り扱っており、同業者は首都圏だけで30〜40社ある。各社ともに深刻化している後継者問題を企業間のグループ化などで解決し、事業承継に役立つと考えられるため、ぜひ研究成果を生かしていきたい。もちろん他の業界においても研究成果を発表し、企業経営における協調戦略の重要性を広め、実業界に貢献していきたい。ビジネススクールなどで教鞭をとることも目標の一つだ。

祝

2018年9月 東京農工大学博士号(工学)取得

## 大槻俊明さん(取得時67歳)

【論文テーマ】CNC(数値制御)工作機械の高速高精度性の評価と向上

# 若い院生らと交流しながら、40年の経験を活かした充実の研究生活

## ■世界に誇る技術を退職後も進化させる研究

大槻俊明さんは、京都大学の修士課程卒業後から定年まで40年間、ファナック株式会社(入社時は富士通ファナック)に勤めた。ファナックは、日本を代表する電気機器メーカー。工場オートメーション化のシステム開発に力を注ぎ、特に工作機械のCNC(数値制御)装置の世界シェアはトップだ。大槻さんはそのCNCのソフトウェア開発に40年間携わった後、2016年に定年退職した。自分の技術や能力を、まだまだ世の中に活かしたいと感じていた大槻さん。4か月後には東京農工大学大学院博士後期課程に籍を置くことになる。

研究に専念できたとはいえ、研究計画を練り、実験を重ね、3本の論文をまとめ、学会誌へ投稿し、論文審査を通し、短縮の2年で博士号取得というのはすごい。

実は大槻さん、現在も毎日キャンパスに通っている。教授の勧めにより、博士特別研究生として東京農工大に残って研究を継続している。授業料は免除で、自由に研究や実験設備が使えるうらやましい立場だ。博士号取得研究をさらに具体化し、企業と連携した実用化も進めようとしているとのこと。

## ■加工速度と精度を高めるソフトウェアを研究

研究内容をわかりやすく言うと、CNC工作機械のハードの性能は同じでも、それを動かすソフトウェアの開発により、より早く精度の高い加工を可能にする方法を実証すること。

研究テーマは3つ。①速度や精度の評価方法を確

立すること。これには新規アルゴリズムを開発した。

②ベンチマークテストの結果を速度と誤差の二次元表示できるようにする。見える化でマシンの性能比較にも活かせる。③加工プログラムの作り方による高速・高精度化。開発したプログラムによって、精度の誤差は3割減、速度は2割アップした実例もある。その数値は従来からのハードを使いつつ、最新型にも劣らない能力を持たせることが可能で、コストダウンや品質アップが期待できる。

## ■社会人を経た今だからわかること

ファナックは研究開発に力を入れ、従業員の3人に1人は研究者という会社だ。大槻さん以外にも退職後に研究を続け、博士号を取得するようなケースが多いのかと思いきや、そういう話は過去に1人いたかどうかで、OB会などでも聞いたことがない



財団の交流会では、同年代やさらに高齢で博士号を取得した方とも話ができて、とても刺激になっているという。

うだ。大学の研究室でも、ほとんどは20代の若い院生、学生だ。学食でランチをしながら議論したり、交流をしたり、エネルギーをもらいながら楽しい研究生活を送っている。インタビューをしたこの日も、夜は研究室の花見に参加予定とのこと。

「自分自身が大学から修士課程に進んだころは、正直言って、自分の研究が何にどう役立つかわからなかった。ファナックに就職したのも、たまたま指導教授がファナックの創業者と知り合いだったために推薦されたから。先生には先見の明があったのだろうが、自分にはなかった。しかし、社会人を経て世の中を知った今は、研究の意義がよくわかる。だから、一日中立ちつばなしの実験が続いても、身体のつらさより楽しさや喜びが上回る」

## ■松田理事長の励ましを胸に

CNC工作機械は、マザーマシンとも呼ばれる。航空機、自動車、家電、OA機器、スマホなど、現代社会に必要な様々な機械の部品を加工する。開発したソフトウェアが実用化されたら、多くのものづくり企業の競争力を高め、消費者は良いものを安く買えることにつながる。

「人生100年時代が叫ばれ、定年後も新たな勉強や研究ができる時代。当支援制度の合格証授与式で松田理事長に励まされたとおり、生きてる限りはささやかでも世の中に役立つ存在でありたい。働きながら博士号を目指す方も、これから定年退職を迎える方も、それぞれの立場で社会と関わり、何か世の中に役立つチャレンジをしてほしい」

太棹三味線の代表格で、「叩き」と呼ばれる独特の奏法による力強い音と、速弾きのリズムミカルな音階が幅広い世代のファンを惹きつける津軽三味線。

高橋竹山の著書によると、祭りの際、他のボサマ（盲目の門付芸人）より目立つように、より大きな音、派手な技を追求するようになり、三味線は太棹に、撥は速弾きに適した小振りなものになって、打楽器的奏法である叩きが発達したのだという。



和楽器の  
世界へ  
五

ようこそ！

# 津軽三味線

## Tsugaru Shamisen

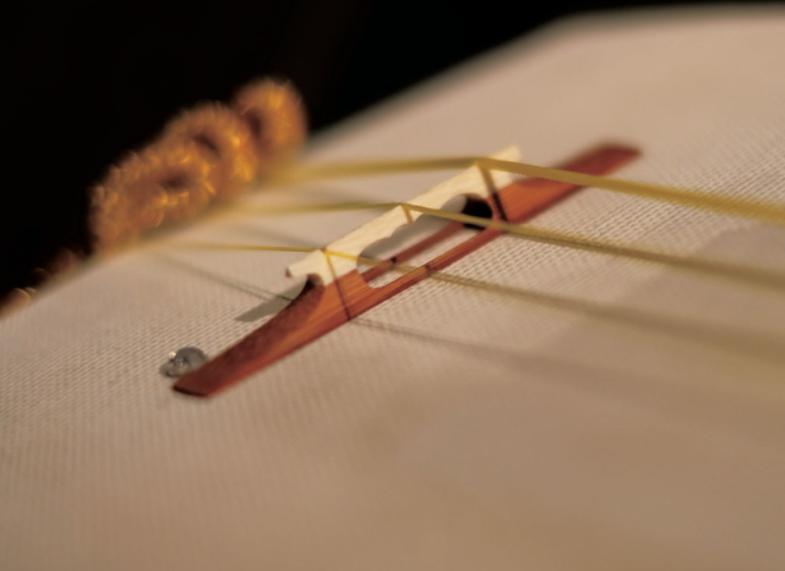
津軽三味線の楽曲の原型は、新潟地方のごぜ（盲目の女旅芸人）の三味線で、北前船で青森県津軽地方に伝わったとされる。幕末に五所川原に生まれたボサマの「仁太坊」が始祖ともいわれ、それまで門付け芸として低く見られていた三味線に革新的な奏法を取り入れ、津軽三味線の原型を築いた。

昭和40年代の民謡ブームで一世を風靡し、三橋美智也らが津軽三味線と称して、定着を見る。本来は伴奏楽器として舞台袖で演奏するものだったが、時代が進むに連れ、三味線の前奏部

分が独奏として独立していった。以後、高橋竹山らの活躍によって、広く知られるようになり、現代音楽として若者の支持を得るなど、他の三味線とは異質な発達を遂げた。

津軽三味線の皮は、以前は犬皮を使用していたが、動物愛護の観点から人口皮（リップル）が使われることが多いという。

糸を持ち上げる役目をする駒。駒の高さ、材質、大きさを  
変えることによっていくつもの音色を表現できる。



棹上部の反りは、天神ま  
たは海老尾と呼ばれる。



一の糸にだけ「さわりの山」がある。ここに弦が  
触れることで三味線の特徴的な音色が出る。

奏者に聴いたその魅力

## 井上公平 Inoue Kohpei



井上兄弟の双子の弟。2000年、兄  
とともに「AUN」を結成。世界34カ  
国にわたる演奏活動が認められ、06年  
国土交通省「ビジットジャパン・キャ  
ンペーン」をプロデュース。日本の伝  
統と今を伝える和楽器奏者、日本が世  
界に発信する新しい形として注目を集  
める。また、森林保護を推進する環境  
保護プロジェクト「株式会社ハートツ  
リー」と協力し、売り上げの一部を里  
山再生に寄付する活動も行う。

鬼太鼓座おんでござに入って、初めて和楽器による音楽が  
あると知りました。それまでは、祭りで太鼓や囃  
子が聴こえてきたくらいで、音楽という認識もな  
かったです。私にとっては鬼太鼓座が和楽器の道  
のスタートと言えます。

30年前は若い人が和楽器などやってないし、三  
味線はオジサン・オバサンがやる楽器というイメ  
ージでした。鬼太鼓座の舞台を見た時に、若い人  
でも楽しめる音楽を、和楽器で演奏できるのだと  
感心しました。そのときに先入観を払拭できたこ  
とで、一歩を踏み出すことができました。

最初は高橋竹山さんの弟子・竹女さんに習いま  
した。初めて津軽三味線を聴いた時は日本音階の  
メロディが入って来なくて、一体これは何だとい  
う感じでした。元々、ギターをやっていたのです  
が、実際に取り組んでみたら、ギターとは全く違  
っていました。この段階でさらに興味を持ち、や  
ってみようという意欲が湧きました。

### ●知ってほしい津軽三味線の魅力は？

和楽器の中では歴史が浅く特殊ですが、演奏者  
は多いです。人を魅了する激しさと繊細さをあわ  
せ持つ楽器で、抑揚をつけてムードを盛り上げる

### ●AUN 公演情報

#### AUN J クラシック・オーケストラ チャリティーコンサート in 相模原

会場：相模女子大学グリーンホール（相模原市南区相模大野4-4-1）

日時：2019年6月6日（木）開場18:00 開演18:30

料金：全席指定 一般¥3,500（税込）

※3才以上有料。3才未満は大人1名につき1名まで膝上無料。

お問い合わせ：相模原シティライオンズクラブ事務局

042-851-9455（月、水、金の13:00～18:00のみ受付）

E-mail : sagamiharacitylc@aria.ocn.ne.jp

### ●監修者：AUNプロフィール

井上公平・井上良平。1969年大阪にて5人兄弟の末の双子とし  
て生まれる。1988年、和太鼓集団・鬼太鼓座（おんでござ）に  
出会い、高校卒業と同時に入座。2000年に「AUN」として独立。  
2009年、邦楽界で活躍する若手を集めて「AUN-J クラシック・  
オーケストラ」を結成。公演回数は国内外で1400回以上。子ど  
もたちに日本文化の魅力を伝えるため、全国の小学校を訪問し、  
和楽器演奏と桜を植える活動もしている。



ことができます。  
三味線独特のビヨーンという「さわり」が特徴  
的ですが、上の写真のように一の糸の下に突起を  
付けて、わざと共振させているのです。海外公演  
で感じたことですが、アコースティックギターや  
ヴァイオリンの澄んだ音に耳慣れたヨーロッパの  
人は、さわりは最初はノイズに聞こえるようです。  
そうした魅力にも気づいてもらえればと思います  
です。西洋では和音で感情表現をすることが多いの  
ですが、和楽器では、単音の鳴らし方一つでさま  
ざまな情景を表現するところも面白いですよ。

### ♪音を聴いてみよう！

財団のWEBサイトで、津軽三味線の音色が聴けます。

[www.gllc.or.jp/llm/magazine/wagakki/](http://www.gllc.or.jp/llm/magazine/wagakki/)

または、左のQRコードからどうぞ。



# 「大学での『学び』とコミュニケーションを

## 新たな人生の原動力に」

大学といえば学問で、学問は本来楽しいものである。学習や研究によって知的好奇心が満たされ、ワクワクすることでは幸福感に満たされる。また、頭を使っている人は、健康寿命が長いことが科学的に立証されているようだ。

人生100年時代、五十歳から第二の人生が始まるとも言われる中、大学での「学び」やコミュニケーションを通して人生の可能性を発見しようと、立命館大学院の名取隆教授が様々な事例とともに、大学の活用方法を紹介した。

### ■地域に開かれた「知のプラットフォーム」

シンポジウムの会場であり、名取教授が教鞭を執る立命館大学大阪いばらきキャンパスは、2015年に開校した新しい学舎で、「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」を教学コンセプトに掲げ、教学展開・キャンパス創造を進めている。敷地の境界に塀はなく、遊具を設置した市民公園（岩倉公園）があり、住民も自由に利用できるカフェレストランが設けられ、立命館大学の社会連携のフロントラインとして整備されている。

一般的に、大学は研究者と学生のための閉鎖的な場所で、住民とは縁が無いと思わ

れがちだ。しかし名取教授は、一般人・社会人こそ大学を積極的に利用し、教員や学生と交流を図って欲しいと訴える。

大学は知識・考え方の方法論など（知的生産のソフトウェア）、教室・図書館といった（施設）、学部や研究科などの（組織）、交流・オープンイノベーションの（場）という機能を備えており、これらを統合した「知のプラットフォーム」(拠点)と考える。こうした大学のソフト・ハード

は一般人・社会人も享受できる。その一例として、名取教授は、立命館いばらきキャンパスの大学図書館が、茨木市在住あるいは茨木市内通勤者は年間二千円、それ以外は年間三千円で利用ができることを紹介。容易で便利な大学の活用方法といえる。

### ■大学で学ぶ方法・教える方法

社会人になって、あるいはリタイヤして



2019年3月10日 立命館いばらき フォーチャープラザ カンファレンスホール

講師：名取 隆 立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科長、教授

東京大学経済学部卒業後、日本開発銀行（現在の日本政策投資銀行）入行。日本政策投資銀行地域振興部企画審議役を経て、2009年4月より現職。金融機関に約30年在職して調査とファイナンス業務に従事し実務経験が豊富で、あらゆる業界と現場の事情を熟知していることが強み。また、市長アドバイザーとして自治体へ出向し、地域のアントレプレナーの育成に従事するなど地域振興行政の経験がある。英国ロンドン・ビジネススクール・スローン・プログラムコースを修了。東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻を修了し、博士（工学）を取得。現在、自治体や経済団体等の中小企業支援事業に協力するとともに、研修講師等として地元企業の経営幹部、技術者等の教育、指導にも携わる。

ある。知己の教員にコンタクトを取るのも、関心のある分野において授業科目が履修できるかなど調べてみるのも良いだろう。

大学とは別に、各種「学会」に所属して研究論文を発表するのも有意義だ。

名取教授は、大学で学んだ後、その成果を生かして教える側にも回ることも勧めている。大学院で学び修士号・博士号を修得すれば講師や教員になる道が近くなるが、教員になるには学歴は不問で、学ぶ者にとって希望が高まる。

### ■目標を具現化するツール「品質表」

十年後にどんな自分でありたいかを考え、将来の自分をデザイン（設計）し、目的に向かうことが人生をより豊かにする。目的を実現するためのメソッドに「品質機能展開法（Quality Function Deployment≒QFD）」があり、ここでは「品質表」というマトリクス（二元素表）を使う。新商品開発や新規プロジェクトの展開、組織の構築などに利用されているツールだ。「品質表」により、目標達成に何が必要かが洗い出され、一つひとつの課題に対して現状どう対処しているかがクリアになるため、初期段階でゴールを見据えることができるようになるという。

また、講演終了後に、数名単位で「ふりかえり」と「気づき」のディスカッションが行われた。「この大学に初めて来たが和やかで良い雰囲気」「図書館利用のことを皆に伝えたい」「大学で研究するには自分の研究テーマを決める必要がある」など様々な意見が交わされていた。